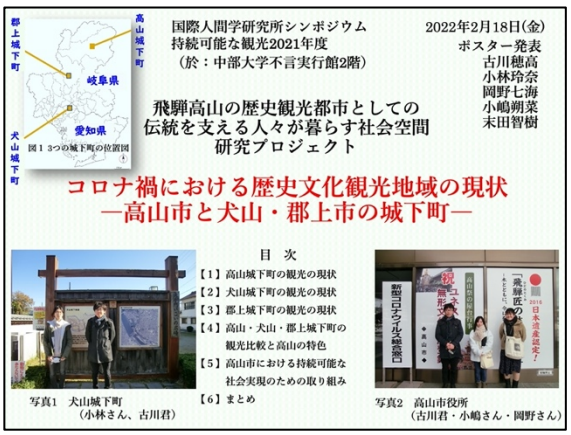
国際人間学研究所シンポジウム
持続可能な観光2021年度
（於：中部大学不言実行館2階）
2022年2月18日(金)
ポスター発表
古川穂高
小林玲奈
岡野七海
小嶋朔葉
末田智樹
飛騨高山の歴史観光都市としての
伝統を支える人々が暮らす社会空間
研究プロジェクト
郡上城下町
高山城下町
岐阜県
愛知県
犬山城下町
図1 3つの城下町の位置図
コロナ禍における歴史文化観光地域の現状
―高山市と犬山・郡上市の城下町―
目 次
【1】高山城下町の観光の現状
【2】犬山城下町の観光の現状
【3】郡上城下町の観光の現状
【4】高山・犬山・郡上城下町の観光比較と高山の特色
【5】高山市における持続可能な社会実現のための取り組み
【6】まとめ
写真1 犬山城下町（小林さん、古川君）
写真2 高山市役所（古川君・小嶋さん・岡野さん）

【1】高山城下町の観光の現状 ①高山市の観光概要
●四季ごとのイベント展開による観光
春
Ex.春の高山祭（山王春）
春の宮川中橋及び江名子川のライトアップ
荘川桜ライトアップ
夏
Ex.夏の宮川中橋ライトアップ
あららぎ湖フェスティバル
飛騨高山手筒花火大会
秋
Ex.秋の高山祭(八幡祭)
紅葉ライトアップ
飛騨荘川新そばまつり
冬
EX.冬のライトアップ
飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり
飛騨大鍾乳洞氷の渓谷
写真3 高山祭ポスター
写真4 冬のライトアップポスター
●地域資源を活用した観光
荘川桜、新穂高ロープーウェイ、乗鞍スカイライン、古い街並、奥飛騨温泉郷せせらぎ街道、高山ラーメン、飛騨の家具など…
写真5 高山駅構内の飛騨の家具展示
写真6 高山ラーメン
景観保全への取り組み→
写真7 高山市三町伝統的建造物群保存地区
→飛騨高山ブランドの確立を目指す
≪ブランドコンセプト≫
"飛騨高山の風土と飛騨人の暮らしが生み出す本物それが「飛騨高山ブランド」"

②コロナ禍における国内誘客と海外誘客
2020年（令和２）３月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって国内外共に観光入り込み客数の減少
●国内誘客・・・感染症防止対策と観光需要の回復
近隣エリアからの誘客、SNSなどを活用した誘致
写真8・9 コロナ対策に取り組む高山三町の様子
↑写真10・11 多言語併記案内板↓
●海外誘客・・・感染症収束後に向けた取り組み
1986年（昭和61）国際観光モデル地区に指定
→多言語パンフレットの配布、多言語併記案内板の設置、コロナ収束後の積極的な観光客誘致
→オンライン広告の展開、積極的なSNSでの配信
JOURNEY HOME WITH US TO TAKAYAMA
出發吧！到家一般溫暖的高山
เชิญฝันมาสู่ฤดูร้อน
https://www.hida.jp/special_site/english/
https://www.hida.jp/special_site/chinese/
https://www.hida.jp/special_site/thai/
図2 多言語ホームページ(英語、中国語、タイ語)

③高山市と松本市の広域観光への取り組み
（1）姉妹都市提携50周年
提携年月日：1971年(昭和46)11月1日
（2）松本高山Big Bridge構想
松本市と高山市を繋ぐ横断ルートで一体となった、動線の磨き上げ
（3）中部縦貫自動車道の充実
中部縦貫自動車道松本市～福井市の高規格幹線道路
→広域交通網の整備による広域観光の充実
→道路計画アンケートの設置
↑写真12・13 外国人向け英語表記の高山、松本連携パンフレット↓
写真14 高山濃飛バスセンターのバス路線図案内板
写真15 高山濃飛バスセンターに設置された道路アンケート

④「二十四日市」の開催状況
～冬の風物詩～
図3 商店街の位置図：Google マップに加筆
写真16 大売り出しの広告
写真17 賑わっている様子
写真18 宮笠と有道しゃくし
写真19 小屋名しょうけ
（1）コロナ禍での開催状況
➢2021・22年は歩行者天国にせずに規模縮小して開催。飲食店の出店中止
（2）伝統工芸品の販売➢写真18・19
➢明治初期から続く伝統の市。
➢宮笠・有道しゃくし・小屋名しょうけ
（3）コロナ禍以前と現在
➢写真20～23
写真20・21 2020年1月24日 写真22・23 2022年1月24日

⑤商店街の状況（本町一～四丁目・国分寺通り・安川通り）
図4 商店街の位置図：Google マップに加筆
写真24 マスク着用の広告
写真25 休業のお知らせ
写真26 店頭にて消毒液設置
写真27 魅力案内の広告
写真28 FREE WiFiの案内
（1）各店舗の感染防止対策
➢写真24・25・26
（2）魅力発信のポスター
➢写真27・28
（3）賑わい創出空間の整備
➢写真29・30・31
写真29 賑わい創出空間整備工事の立看板
写真30 整備工事の様子
写真31 完成予想図

⑥冬の高山のイベント
＊地図内の数字はイベントの数
奥飛騨温泉郷・上宝エリア
国府エリア
市街地エリア
丹生川エリア
清見エリア
荘川エリア
久々野エリア
一之宮エリア
朝日エリア
高根エリア
図5 (2021年12月～2022年3月、地域別イベント数)
○冬の高山におけるイベントの傾向
(1)市域に存在する「雪」という観光資源の活用
(2)歴史、文化、自然など地域特性にあわせた企画
(3)三町を中心とする市街地エリアのイベント充実、ライトアップによる宿泊客の取り込み
○現地の状況
(1)感染拡大による観光客減少
写真32 2021年10月の様子
写真33 2022年１月の様子
(2)祭事・イベントの中止、縮小
写真34 博物館イベント中止
写真35 商店街イベント中止
(3)雪の状況と除雪の必要性
写真36 ビッケルでの除雪作業
写真37 雪の高山市街地

⑦ 飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり
・「飛騨高山御酒飲帳」1冊3,000円（税込）‥祈念杯・エコバック付き
➡2種類の試飲。スタンプラリー。今回は限定2,200セット
・2020年から3年目‥1年目➡約2,400人の参加
‥2年目➡約1,160人の参加
写真38 高山駅での広告 飛騨高山酒蔵のん兵衛まつり
・2022年は当初、1月28日（金）～3月6日（日）で開催予定
‥1月21日（金）から岐阜県のまん延防止等重点措置の適用地域
‥2月14日（月）～3月6日（日）に延期‥再延長の3月7日（月）～27日
・「酒蔵めぐり」（無料イベント）から変更
‥6つの蔵から7つの蔵へ
‥2020・21年：飛騨高山７蔵のん兵衛まつり
‥2020年：第8回 12蔵・飛騨の蔵元勢ぞろい
‥「ワカコ酒スペシャル 飛騨酒蔵めぐり」
（2020年12月29・30日放映）：ロケ地巡礼
中止
・平瀬酒造‥地酒5種類の試飲付き
➡飛騨高山の銘酒「久寿玉」酒蔵ツアー
要予約‥2021年12月1日～翌年3月31日
‥「JRで行く冬の飛騨路・ずらし旅」
選べる体験
パンフに掲載
・昇龍道日本銘酒街道
酒蔵体験：酒の広域観光
写真39 二木酒造
写真40 飛騨酒造組合
写真41 平田酒造場
写真42 原田酒造場
写真43 老田酒造店

【2】犬山城下町の観光の現状　①愛知県の観光の概要

図6　2020年愛知県観光客利用上位の10施設

(1)車でのアクセスがよく、様々体験が出来る施設
Ex.中部国際空港、デンパーク、鞍ヶ池公園

写真44　デンパーク

写真45　セントレアの商業施設

(2)多様な博物館施設
Ex.東山動植物園、トヨタ産業技術記念館

(3)歴史文化を活かした観光地域
Ex.熱田神宮、犬山、豊川稲荷など

写真46　犬山城

写真47　豊川稲荷

②犬山城下町の観光の現状

図7　2021年11月28日（日）のナンバープレート分布図

○現地の状況
- **コロナ禍でも、多数の地域から観光客が訪問。**
- 全体的には県内が多く、なかでも尾張地域が多数。
  三河の割合も高い。
- また、隣接する岐阜県からの訪問客も多い。
- 東海3県以外では、**関東圏が多数。**

写真48　コロナ対策用アルコール

写真49　2021年11月28日の調査地の賑わい

○ 犬山城下町の観光の特色
(1)大都市からの良好なアクセスと鉄道会社による観光地としての開発

(2)**城下町を中心**に、犬山城も周る観光ルート

(3)城下町内では本町通という**単一**の観光軸

写真50　県独自の観光振興策

写真51　本町以外の城下町の様子

【3】郡上城下町の観光の現状　①岐阜県の観光の概要

図8　2020年岐阜県観光客利用上位の10施設

(1)歴史文化を活かした観光
Ex.郡上、高山、白川郷合掌造り集落

写真52　郡上市街地

写真53　高山三町

(2)他地域と連携した広域観光
Ex. 岐阜＋富山、岐阜＋長野、岐阜＋福井

(3)豊かな自然を活かした観光
Ex.モネの池、温泉と山岳地帯

写真54　モネの池

写真55　岐阜と長野県境の焼岳

②郡上城下町の歴史と特色

(1) 城下町「**郡上八幡**」➢歴史遺産
(2) 郡上八幡の「**水空間**」➢自然環境
(3) 伝統文化としての「**郡上おどり**」➢伝統文化
➡持続可能な**四季を通じた**観光地域

写真59 宗祇水（名水百選）

写真60　清流吉田川

写真56　郡上八幡城

写真57　郡上八幡城上町みどころ案内板
：7つの観光施設の共通券

写真61　郡上八幡での観光客

写真62　長良川支流（吉田川）

写真58
重要伝統的建造物郡保存地区

写真63・64　郡上八幡博覧館
郡上おどりミュージアム

③郡上城下町の観光の現状

図9　2021年11月13日（土）のナンバープレート分布図

○現地の状況
- 岐阜県内からの観光客が中心だが、**北陸からの観光客**が多くみられる。
- 一方、関東圏からの観光客は多くない。
- 電車利用の少なさ。
- 城下町内の観光の軸は複数存在。

写真65・66　郡上八幡駅の利用者は少なく、駅前には土産物店等は少ない

○ 郡上城下町の観光の特色
(1)**八幡城を中心に**城下町も周る観光ルート

(2)川や山など、豊かな自然と歴史文化の共存

(3)明宝地域など他地域との広域観光

写真67
観光の中心、郡上八幡城

写真68
史跡は周辺の山中にも点在

【4】高山・犬山・郡上城下町の観光比較と高山の特色

表１　３つの城下町観光地の比較

	高山城下町	犬山城下町	郡上城下町
主要観光地	・城下町全域	・犬山城＋本町通り	・郡上八幡城＋城下町
冬季のイベント	・市内全域で盛んだが、三町での開催が多数 ・雪、歴史文化を活かすものが中心	・秋・春に比べて少ない	・城下町以外で雪を活かしたイベント ・城下町は郡上踊りが行われる夏に盛ん
祭り	・春と秋の高山祭り	・春に行われる犬山祭り	・夏の郡上踊り
古い町並み	・町人地を中心に保存されてきた重伝建	・江戸時代から残る町割り	・吉田川沿いの町並みと重伝建
豊かな自然	・三町を流れる宮川、四季折々の変化を見せる城山	・近隣の鳩吹山、木曽川	・城下町を流れる吉田川、付近の山々
地域振興策の特色	・岐阜県内外の地域との連携、さるぼぼコイン	・名古屋鉄道との連携	・下呂など岐阜県内他地域との連携
観光客の特色	・岐阜県内、県外を問わず多様な地域からの訪問	・愛知県内中心、関東も多い	・岐阜県内を中心に北陸との結びつき
宿泊の有無	・宿泊中心	・日帰り中心、ホテルも有名	・下呂で宿泊する事例もあり
アクセス方法	・バス・電車など多様	・自動車中心、電車利用も盛ん	・自動車中心

○ 持続可能という観点からの高山観光の特色
(1)**年間を通じて観光資源が豊富で多様**⇒観光施設へのリピーター獲得

(2)「さるぼぼコイン」による**観光客の消費が地域に還元される仕組み**
⇒地域内産業の活性化、地域住民の生活向上による地域の存続

(3) **住民と地域が一体となった観光への取り組み**
Ex.金融機関による観光業支援、農協と農家が共同で行う特産物の開発

写真69　コイン変換機

【5】高山市における持続可能な社会実現のための取り組み

○ 地域存続のための取り組み
(1)**移住促進による地域人口増加**のための取り組み
・滞在型市民農園施設（クラインガルテン）による農業体験

(2)**若者に地域にとどまってもらう**ための取り組み
・飛騨高山大学（2024年4月開学予定）、住みやすい街づくり

写真70　連携先の1つ、飛騨信用組合

(3)**産業振興**による地域の活性化と就労人口増加
・高山ブランドの創出と魅力向上、産学金官連携の促進と創業支援

○高山市におけるSDGsの取り組み～2030年のあるべき姿～
(1)地域特性を活かした産業が活性化し、賑わいと魅力にあふれる街
・酒・味噌の醸造、木工工芸品の製作と販売、観光業

写真71　地域に根差す史跡
飛騨国分寺
（国史跡、本堂国重文、三重塔県重文）

(2)歴史と伝統が継承され、郷土への誇りと愛着が持てる街
・高山祭りの継承、三町重伝建の保全活動、シビックプライドの養成

(3)自然がもたらす多様な恵みを活かすとともに、脱炭素社会に貢献する街
・森と木にかかわる人材育成、地域にある木質資源の活用

⇒地域を存続し発展させる高山‥観光戦略もその一環

写真72　味噌の醸造・販売店

【6】まとめ

①コロナ禍における歴史文化観光地域の現状
(1)2021年10～12月コロナ禍前の盛況
(2)各地・各店舗のできる限りの感染防止対策
(3)団体客・外国人観光客（**客単価**）の減少

写真73
飛騨高山まちの博物館
：旧永田家・
大坂屋吉右衛門

②日本における観光のモデル都市「高山市」
(1)四季を通じた観光イベント‥冬の観光イベントに注目
(2)観光地域と隣接地域（商店街）との連携
(3)広域観光の中心地‥ノウハウの提供

写真74
犬山からくりミュージアム

③国際観光都市「高山市」においても様々な問題？優位性のみならず
➡持続可能な観光（振興・発展）にとってデメリットの解決が重要

写真75　歴史地理学科の参加学生
古川君・岡野さん・小林さん、小嶋さん

主要参考文献

(1)『飛騨高山　明治・大正・昭和史』飛騨・高山　天領三百年記念事業推進協議会、1992年
(2) 高山市企画管理部企画課『高山市第八次総合計画』高山市、2015年
(3) 林上編著『飛騨高山-地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く』風媒社、2018年
(4) 宗宮弘明・太田明徳編『持続可能な地域のあり方を考える-高山学をめざして』あるむ、2019年
(5)『高山市史　近現代編（下）』高山市教育委員会、2019年
(6)『高山商工会議所ビジョン【NEXT takayama】』高山商工会議所、2021年
(7) 足立重和『郡上八幡-伝統を生きる-地域社会の語りとリアリティ』新曜社、2010年
(8) 渡部一二『木の恵みを受けるまちづくり-郡上八幡の水緑空間』能登出版会、2010年
(9)『水のめぐみを活かす知恵-郡上八幡の水環境とまちづくり』NPO法人郡上八幡水の学校、2016年
(10)「国宝 犬山城 城下町まち歩き」犬山市教育委員会歴史まちづくり課、2021年
(11) 高山市商工観光部観光課「高山市の観光振興について」（最終閲覧日：2022年2月14日：https://www.city.takayama.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/030/shiryou7.pdf）
(12) 郡上市「第2期郡上市観光振興ビジョン 平成28年度～平成32年度」（最終閲覧日：2022年2月14日：https://www.city.gujo.gifu.jp/admin/docs/2nd_kanko_vision.pdf
(13) 犬山市「犬山市観光戦略（冊子イメージ：案）」（最終閲覧日：2022年2月14日：https://www.city.inuyama.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/006/132/05-08_sassiime-ji.pdf

飛騨高山の歴史観光都市としての伝統を支える人々が暮らす社会空間研究プロジェクト
自由懇談

古澤礼太（中部大学国際 ESD・SDGs センター准教授・中部 ESD 拠点事務局長）：大変素晴らしい発表で、びっくりしております。というのは、私が不勉強で知らなかったのですが、中部大学と高山市の連携関係があるのに、こういう活動がなぜ表に出てきていないのかということに、少し驚いています。本題に入る前に、お聞きしたいのですが、高山学会というのがあって、いろんな大学生が発表していたのですが、それは、まだ参加はされたことはありますか。

古川：私たちは高山学会といったものに参加はしたことはないです。

古澤：皆さんは 4 年生ということなので、機会もないかもしれませんが、また、そういうところに出ていくといいですよねと思ったのが一つ。あと、酒蔵まつりが今年は開催されるとのことですが、歩いてどれくらい回ることができるのですか。

末田（人文学部歴史地理学科教授）：これはスタンプラリー形式になっているので、全部回ったほうが良いということです。

古澤：そうですよね、ただ、距離的に、例えば、ちょっと歩いて難しいみたいなところもあるわけですよね。

末田：いえ、回れます。蔵があるのが 6 軒なのです。酒蔵が 1 軒だけ郊外の離れたところにあります。だから、これまで高山三町の酒蔵めぐりでは 6 軒でしたが。その郊外に酒蔵を持つ酒造店の直売店が市内にもあり、そこも入れて今回は、学生と一緒に 7 軒すべてを回りました。

古澤：そうですか。じゃ、14 杯飲めるということですか。

末田：飲めるということです。回れます。

古澤：私、いつも、舩坂酒造で飲んでおりまして。今、4 年生ばかりということで、その次の世代はどうなるのですか、また、今度のゼミ生が受け継ぐということになるのですか。でも、コロナのせいで大変ですよね、今。

末田：そうですね。2 年生には地理学野外実習という授業があるので、授業を受講してくれた学生で興味がある学生を、また参加させたいなと思ったりしているのですが、先ほど言いましたように、コロナ禍でもあり、積極的な現地調査がなかなか難しい状況です。

古澤：いやいや、これだけ、いろいろ蓄積があるので。（以前に歴史地理学科にいらした）林上先生の本も、私、まだちゃんと全部読んでいないのですが、また読んで勉強しようと思っております。

末田：『飛騨高山（：地域の産業・社会・文化の歴史を読み解く）』ですか。

古澤：はい。

末田：その中で、私は酒蔵業と旦那衆の歴史と現状について 2 章ほど執筆しております。

古澤：じゃ、それをちょっと急いで読まないといけないです。

末田：お恥ずかしいばかりなのですが、ありがとうございます。

古澤：ありがとうございます。

末田：また、いろいろとどうぞよろしくお願いします。私たちばかりが話してもいけないので、学生たちへの質問をお願いします。

古澤：小嶋さんは何回ぐらい行ったのですか。高山へは。

小嶋：私は生まれが高山市ということもあって、2 歳ぐらいまでしか住んではいないのですが、結構、家族で高山に行くことは何回かあって、コロナ禍に入る前は、毎年ゴールデンウイークに 1 回という感じで、高山に行っていました。

古澤：もともと実家が高山のどこなのか、ご存じなのですか。

小嶋：高山の片野町というところです。市街地の中ではないとは思うのですが。

古澤：この間も、高山学会があって 12 月か 11 月に行ったのですが、いろんな大学の学生さんがフィールドとして研究をしていました。愛知大学なども元気に発表しておられたのですが、その中で 1 人、名古屋の大学の女子学生で、高山をフィールドにして研究したことによって高山が好きになって、市役所に就職した子がいるのです。その子が、今、期待の星になっているのです。「でこなる横丁」とか、行かれましたかね。

末田：新しいところですよね。

古澤：新しいところです。そうです。

末田：そうですよね、私が高山へ調査で行き出した頃にはなかったので。

古澤：新しいところだから、ちょうど観光客と地元の人が半々みたいな感じで、みんな仲よくなるという、本当に素晴らしいところなので、また。

末田：先ほどから言われていた学会ですよね。

古澤：はい。

末田：（中部大学国際・地域推進部地域連携課長の）蓑島さんの名誉のために言っておかなければ。実は蓑島さんから、昨年じゃなくて、その前の年に学生を含めて、その学会での発表に誘われました。ところが、ほかの学会での発表とバッティングしていたので参加できなかったのです。いずれまた、機会があればと思っております。

古澤：私も、観光のことは全然詳しくないのですけれども、市役所の人たちと話をしたときに、確か、一昨年ぐらいに観光担当の部長さんが、高山の外国人の滞在日数が 2.5 日と言っていたような気がするのですよ。2.5 日――1.5 日だったかな――はそんなにめちゃくちゃ長くはないわけですよね。はっきり覚えてないのですが、やはり中心市街地の古い町並みは行くのだけれども、そのほかに足を運んでくれないということで、そのことでちょっと困っているという話でした。要するに、彼らは、白川郷に行ったり、下呂に行ったりして、高山は、町並みを見て、また次のところに行くとか、北陸に行くとかということになるようなのです。何とか、そういった人たちの足を止められないかということで、それこそ観光客向けの何かというよりも、エコツーリズムじゃないですけれども、何かそういうサステナブルなこのまちを見せられないかと。ちょっと郊外のほうでも見どころを作って、まさに実生活の中でのサステナビリティと、観光客が求めるようなサステナブルなジャパニーズサステナビリティといったものが合致すればいいねということが、これからの議論になると思うのですよ。ですから、ちょっと郊外のことで、何か気付きがあれば、まだ、そんなに回っておられないかもしれないですけれども、何かご意見とか、あれば教えていただけますか。

古川：郊外に関して言えば 2 つございまして、1 つは、東山の寺、寺院群になります。そちらが、先ほど末田先生の発表の中であった、旦那衆の存在に支えられて現在まで存続している寺群なのですが、こちらのほうは外国人の方にも非常に人気ということでして。例えば、三

町を回られた後に、そういった東山の寺院群など回るというモデルケースなどがあれば、より、滞在日数を増やすことができるのではないのかというのが、私個人の考えになります。

古澤：なるほど。それと、旦那衆と一緒に飲もうみたいなのがあればいいですよね。特別なコースで、旦那衆と一緒に飲むツアーみたいなの。それは面白い、すみません、勝手に。

古川：いいえ。もう 1 つが、やはり、飛騨の温泉郷という点です。平湯などに代表されるように、非常に日本的な温泉旅館なども残っておりますので、これは外国人の方に大変好まれると思います。また、周辺には山々などがあります。例えば、新穂高ロープウェイだとか、そちらから足を延ばすと日本アルプスの中でも槍ヶ岳とか、非常に有名な山にも通じる山岳ルートもございます。外国人の方は結構、登山を楽しまれる方も多いものですから、登山の拠点としても活用していただければと思います。例えば、三町などを見て日本の伝統文化を楽しむ。続いて、東の寺院群なども見ていただく、その上で、新穂高温泉などを経由していただくといったプランなどを組むことができれば、日本の和とか、もしくは文化なども楽しんで、かつ自然も楽しめるという点で、非常に異なる魅力というのもセットにすることができ、かつ滞在日数も延ばすことができるのではないのかと思います。これは、私の個人的な考えではございますが。

古澤：なるほど。そうですね。あと、やはり来る前に組んでしまうと、滞在日数を増やすことがしにくくなる。海外の方は、日本人ほどは組まないのかもしれないですけれども。海外といっても、いろんな国があるので、違うとも思いますが、発信も大事ですよね。「このコースが面白いよ」のようなことを発信していく。まちなかに古い中華屋さんがあるのですが、そこのおかみさんが、すごく発信力があるみたいなのです。いつも和服を着ているのですよ。元学長の山下（興亜）先生と一緒に行ったときに、昼ご飯を食べようと思ったのですが、やっぱり高山ですから和食を食べたいじゃないですか、何となく。そこで、和風なお店を選んでガラッと開けて入ったら、そのおかみさんが和服を来て出てきて、「ごめんなさい。うち、中華料理なんですよ。和食お探しですよね。ここから 20 メートルぐらい歩いたところに……」とか言うのですよ。そうやって、けなげにほかのお店を紹介しているから、「いや、中華でいい」と山下先生が言って、そこに入ったら、おもしろい話をいろいろ聞かせてもらったのです。その人が、オンラインでものすごい人気の人で、そこの中華屋も外国人がたくさん来て、そのおかみさんと話すのが楽しいみたいなのです。なんか、そういう「人の財産」というか、コミュニケーション力がお客さんを呼ぶということもあるのだなというふうに思った次第です。

古澤：あと、でこなる横丁に、ジビエの店ができたのです。

末田：それは知らないですね。

古澤：鹿肉も、猪肉も当然あるのですが、熊の肉もあったりして。その店をやっているお兄ちゃんが、一家揃って猟師なのですよ。

末田：そうですか。

古澤：「熊はどこで取れるんですか」と聞いたら、「この辺ですよ」って言うから、「嘘でしょう。熊は北海道でしょう」とか言ったら、「いやいや、地元の熊です」と言っていて、高山で取っているらしいのです。

末田：貴重な情報をありがとうございます。こちらの方が大変重要な情報をいただいて。

古澤：私がいつも行くのはおでん屋さんなのですが。

末田：どこのですか。

古澤：でこなる横丁におでん屋さんがあって、サッチャンという人がいるのですけども、そこに、ぜひ、行ってください。

末田：行ってみます。古澤先生にご紹介されたからと言って。ありがとうございます。この後ろ（zoom のバーチャル背景に使っている写真：図 1）、わかりますよね、三町のところなのですが。これは、この間の調査で撮ってきたのですが、観光客が誰もいない状況です。

図 1. 末田教授の zoom のバーチャル背景

古澤：誰もいないですよね。

末田：まん延（防止等重点措置）の期間になっていましたので。通りはがらがらでしたね。そういう状況なので、また（蔓延防止等重点措置の期間が）伸びたということで。ただ、期待はしているみたいですよ。春休みになるからということで。

古澤：私、SDGs の関係で、今、もう一つまちづくり協議会のサポートをしてくれと市役所に言われて、それで一之宮地区の上のほうの位山のところなのですが、一度二度話をしに行ったことがありまして。一之宮でネタがあったら、またぜひ教えていただけたらと思います。そこにモンデウスというスキー場があって、そこは、もう雪が降らなくなってきているので、観光をどうするかという話が出ているのです。私は、気候変動に対応した日本一の新しいスキー場だと言って売り込めばいいんじゃないかとかといい加減なことを言ってきたのですが。そういう取り組みも始めたいようなことも聞きました。

末田：なるほど。あ、岡島さん、末田でございます。

岡島健（中部大学国際・地域推進部国際連携課長）：末田先生、どうも。

末田：学生たちに、ぜひ質問をお願いできればと思うのですが、よろしくお願いいたします。

岡島：私も途中までしか拝聴していなかったのですが、高山って、すごくいろいろな観光資源があって、歴史的なもの、それから食とか、お酒とか、いろいろあると思うのですが、学生さんたちにとって一番高山で魅力的だと思ったものは、観光資源で何だったのですか。

古川：それに関しては、岡野のほうから答えさせていただきます。

岡野：岡野です。ご質問いただき、ありがとうございます。　私が一番魅力に感じる観光施設でしたら、やはり、古い町並みかなと思っています。ここにしかないというのは、いろいろ地域資源はあるのですが、古い町並みというのは、どこでも絶対再現できないものだと思っているので、個人的には、高山独自の古い町並みが一番魅力的かなと思っております。

岡島：ありがとうございます。

末田：私の方からも質問を。郡上――岡野さんは行っていないのですが――郡上にも古い町並みがあるのですが、あそこは古い町並みの方には行かずに、観光客が向かうのはお城（郡上八幡城）ばかりで、また商店街ですね。お城から商店街がすごく近いということなのですけど。岡野さん、例えば若い人たちは、どうして古い町並みに惹かれるのでしょうか。

岡野：やはり、自分たちが生活している中では、味わえない風景というのを味わいたい人たちが多いのだと思いますが、古い町並みに行きたいとなったとき、多分、若い人たちは交通の便が便利なほうに行ってしまうのだと思います。高山の古い町並みだからこその良さというのを、若い人たちに知ってもらうというのが、今後もまた課題になってくると思います。

末田：例えば前回、高山の城下町を視察したときは観光客が少なかったので、状況をあまり確認できませんでしたが、飲食店が一つの魅力になっていましたね。犬山の城下町も、すごく飲食店に力を入れていて、ああいう町並みに惹かれてやって来た観光客向けに、インスタ映えする食べ物とかで取り込んだりしていますね。同じことを高山もやっているわけです。郡上の城下町は残念ながら、それが少なかったと思います。このように飲食店で惹きつけるというような城下町観光があったりするのですが、岡野さんから見て、そのような飲食店には行きませんか。私が視察すると、よく若い人たちの行列ができていますが。彼らは飲食店に惹かれるのか、それとも、町並みに惹かれているのかということですが。

岡野：私としては両方の目的をもって、犬山の城下町に遊びに行っていたのですが、古い町並みは新しいお店がないからこそ、古い雰囲気が味わえるという良さがあると思うので、私だったら郡上の城下町の方にも行きたいなと思います。

末田：それと、あと、もう一つ。今、全国的に流行っているのが古民家を利用した施設や飲食店ですね。だから、この間、高山に行ったときに、古民家を利用した創作歯ブラシのお店のような新しい施設ができていましたね。飲食店以外にも、いろいろと若者向けの新しい店ができていて、かつ古くからみられる酒屋や味噌屋のような伝統文化を象徴するお店もあって、高山の城下町というところには新旧さまざまなお店が揃っています。この点から犬山の城下町を見ると新しいものばかり、つまり若者向けの飲食店が目立っています。古い町並みと新しいものが融合する形が高山の魅力の一つになっていると思います。

岡島：ありがとうございます。

岡野：すみません。今のフォローしていただいて。

末田：ご質問ありがとうございます。古澤さんはどう思われますか。

古澤：魅力ですよね。おっしゃるとおり、飲食店が非常にいいのがあると思うのですが、名古屋のほうからも、岐阜のほうからも、若い人がお店をやりたくてどんどん来ています。コロナ禍の半ば頃に、私が、でこなる横丁で飲んでいたら、名古屋の不動産関係者が、岐阜市の飲食ビルのオーナーみたいな人たちと来ていて、今だったら、とにかくものすごく安いから、ばんばんテナントを押さえて、コロナ明けの商売に備えようとしてお客さんを連れてきているのですよ。もう１つ、やはり飛騨牛です。日本の古い町並みでというので、日本酒もいいし、田舎っぽい五平餅とかもいいのだけれども、そこに、あの光る飛騨牛の脂ぎった感じがあるから、やはり若者が来ても、飛騨牛の寿司を食べたいとことになってくると思うのです。質素な日本的なもの、プラス、脂ぎった若者を惹きつけるようなものというのは、すごくパワーがあるなと僕は思いますね。

末田：ありがとうございます。飛騨牛は一番行列できますものね。お寿司のところなどを見たら、若者ばかりです。飛騨牛が中心になっていますからね。まさに、その通りだと私も思います。

古澤：あと、僕が面白かったのが、お椀屋さんみたいな店が結構あるじゃないですか。木のお椀。漆塗りのやつとか。あれ高いものは高いのですけど、安いのも売っている店があって、一

回店主に鎌をかけたことがあるのですよ。これはベトナム産か、みたいな感じで。いかにも知っているような顔をして、「これ、やっぱり名古屋の問屋さんのところで買っているのですか」と言ったら、もう分かっていると思ったみたいで、「いや、うちのは富山の問屋からですよ」と言ったので、「これ、やっぱりベトナムですか」と聞いたら、「ベトナムですね」と言っていました。500 円程度で買えるようなものは、やはり東南アジアで作られたもので、漆で 3,000 円とか 4,000 円のものは本物だというのは、道の駅とかでもそうですが、混ぜてうまいこと売っているなとは思いました。でも、何で富山の問屋なのだろうと思って。もう少し大都会の問屋から仕入れているものと思っていたら。

末田：富山は、高山からルート的に近いからですね。歴史的にみても、いろんな意味で高山は富山とのつながりが強い地域ですから。

古澤：ああ、そうなのですか。

末田：とくに江戸時代からのつながりが強いということでしょうね。私は、陶磁器の研究を進めているので、同じようなことが見られます。陶磁器も、自らの産地の製品と東南アジアから仕入れた商品を揃えて、価格面も含めバラエティを持たせているということはありますよね。

古澤：あと、僕は富山からのぶり街道に興味があって。本などでも読んだことがあって、食の街道っていう小さい本があって、ぶり街道はいいなと思っていたら、一昨年、シンポジウムで駿河屋というスーパーの社長さんと一緒にパネルディスカッションをしたことがあったのです。そのときに、ぶりの話が出て、去年は行けなかったのですが、今年は無理して大雪の中の 12 月 30 日に駿河屋に行ったのです。ぶりが 1 尾 4 万円ぐらいして、半身だと 2 万と言っていたので、年末最後ぐらい全部使ってやろうと思って行ったのですが、そうしたら、ちゃんと切身が売っていました。一切れ 2,000 円ぐらいでしたけれども、それを 3 枚ぐらい買ってきました。おいしかったですね、本当に。

末田：貴重な情報ばかりをいただき、古澤先生ありがとうございます。それから、岡島さん、ありがとうございます。実は、同じようなことを高山の観光協会の方にも聞かれました。お酒のことを聞いていたら、飛騨のお酒に関して、学生たちはどう思っているのかをお教えてください、と。だから、観光協会の担当者も、学生の視点をすごく欲しがっているというか、若い者の考え方をいろいろと知りたがっているというか、どういうふうに考えて彼らが高山に訪れているのかを知りたいようですね。

岡島：高山だったか、どこの町だったか忘れたのですが、観光協会の方から連絡をいただいて、留学生を使ってモニターをしたのです。留学生にただで来てもらって、いろんなところを回ってもらって、感想を聞きたいということでした。要するにインバウンドの観光に役立てたいということで、ちょっといろいろなしがらみがあってお断りしたのですが、そういうことを考えている観光協会の方がいらっしゃって。今はインバウンドがあまりない状況ですから、古川君はじめ皆さんの意見を高山が聞きたいのだと思います。

末田：そう感じましたね。まさに、若い人たち。この前大学に高山市長が講演に見えたときも、そうでしたよね。若い人たちが街を歩くだけでいいのだと。それが刺激を与えるのだと。あの言葉は、すごく印象に残ったので、我々も高山に行ったときには、歩くだけでいいということだから、どんどん歩こうといって、いろいろなところを歩いていました。誰も歩いていないけれど、「来てるよ」みたいな感じですればいいのかなと。高山市長が、それ

だけでもやってくださいと言っていましたので、「じゃ、やろう」と言ってしましたけど。そういうことを、何カ所からも聞きました。逆に質問されるというようなところなので、我々も気を付けて、調査だけではなくて、向こうが知りたがっているところもご提供しながら行かないと連携にならないという感じをもちました。ただ、先ほども言いましたが、このゴールデンメンバーが卒業するので、来年はゼロになってしまうのです。

岡島：本当ですね。

末田：特に古川君は、2 年生のときから 3 年間にわたって参加してもらっているので、来年度はどうしようかと思っています。

岡島：古川君は、実際いろんなところで、私とかかわりがありまして。

末田：そうですか。ありがとうございます。いろいろとお世話になりました。

岡島：彼が卒業するのが、本当に寂しくて。

末田：そう言っていただいて、大変ありがとうございます。とてもうれしく思います。また、新たに学生を発掘しまして、引き続き飛騨高山の調査を頑張っていきたいと思います。研究所のプロジェクトとしては、あと 1 年残っているというふうにおっしゃっていましたので、何とか頑張っていきたいと思います。また、どうぞよろしくお願いします。

古澤：ゼミの皆さんは、これから高山から離れてしまうわけですか。例えば、Facebook のページかなんか作っておいて、そこで卒業生も、我々も情報をちらちら見られるようなのがあれば、とてもうれしいです。

末田：ありがとうございます。古川君は、就職先が銀行に決まっているのですが、ぜひ、引き続き何とか協力してくれないかとお願いしたところです。しかし、仕事が忙しいと思いますので。古川君、すみませんが、感想よろしくお願いします。

古川：ありがとうございます。私自身、高山という場所は、研究のフィールドとして非常に面白いと思っていて、掘れば掘るほど深堀ができる地域だと思います。自分自身、将来、研究者になる道があったら高山をフィールドにしたいとは思うのですが、将来のことがありまして、抜けてしまうことになります。高山にも、金融機関があったり、うちの会社のほうでも支店があったりしますので、もし縁があれば、今後も高山にかかわらせていただければというふうには思っております。

末田：ありがとうございます。すみません、そろそろ時間となってまいりました。古澤さんと岡島さんと私とで、全然話が尽きませんが、ここまでということで。

岡島：終わらないですね。

末田：ぜひ、高山でご一緒にさせていただきたいと思います。

古澤：ぜひぜひ。

末田：また、ご一緒させてもらえることを楽しみにしまして。おそらく夜の食事が中心になるかもしれませんが、どうぞ、よろしくお願いいたします。本日は、ありがとうございました。

古澤：ありがとうございました。

末田：どうぞ、よろしくお願いいたします。

岡島：学生の皆さん、よく頑張っていただきました。

古川：ありがとうございました。

岡野：ありがとうございます。

末田：流れ解散ということですので、これで一応終了としたいと思います。大変ありがとうございました。皆さんは卒業してしまいますが、また、この後、整理というか、反省会ということで、皆さんの感想（振り返り）を個別に聞かせてください。皆さんは卒業してしまっていなくなるのですが、プロジェクトはまだ来年１年あります。ですから、こうしておけばよかったとか、ああしておけばよかったとかいうことを残してもらうと、私がまた新たな学生たちと一緒に調査をするときに、「先輩方がこういう意見を残していったので、こういうことを残り１年でやりましょう」というように、皆さんが見つけてくれた課題を次につなげることができるかと思います。皆さんには、もう１つご負担をかけますが、最後にそういったご意見を卒業前までにもらえればと思っております。宿題となって申し訳ないのですが、せっかくですから、もうひと頑張り、どうぞよろしくお願いいたします。これで最後の挨拶とさせていただきます。特に古川君は３年間、本当にありがとうございました。ほかの３名の女性陣も、１年間参加していただきまして、大変ありがとうございました。それでは、これで終了したいと思います。

（　　）内＝編集者の追記